

学習指導要領		都立小金井北高校 学カスタンダード
(1) 現代に生きる自己の課題	<p>自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。</p>	<p>自己にとって他者とはいかなる存在としてありうるのか。いわゆるアイデンティティといったものの形成は他者との関係性によって確立されるものであろう。そうしたものを現代の心理学や構造主義あるいは分析哲学などの学問体系を通じて探求していき、生徒の思索の端緒となしていく。</p>
(2) 人間としての在り方生き方	<p>自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。</p> <p>ア 人間としての自覚</p> <p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。</p> <p>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p>	<p>哲学の課題はギリシアに始まるといい。しかしそれはソクラテス以前と以後とは大きな相異点が内在する。</p> <p>自然哲学の形成は現代に続く学問の源流であり、ソクラテス以降の哲学の在り方は抽象的かつ普遍的な本質論であった。</p> <p>世界観の再構築ということ言えば、そうした真理探究の視座として、絶対的なものへの信頼であるか、また相対的な視座の獲得によるかである。</p> <p>このような世界観の視座の相異性の解説をとおして、いわゆる現代哲学までの変遷を辿り、かつ、西洋的分析と東洋的分析の特質と関係性を明らかにしていく。</p> <p>文化というものの独自性と混合性の問題である。日本の古来からある思想および文化の在り方を、外来思想との関係、そしてそこにおいて形成されたいわゆる日本的なものとの相関関係において解説を試みる。</p> <p>交通や情報をとおした世界的・歴史的展望を有しながら現代までの日本の思想を探求していく。</p>

